Japan College of Social Work
日本社会事業大学

Social Workers

社大OB・OGがつむぐ福祉の絆 ソーシャルワーカーズ

2013
10月
Vol.10

障がいのある方とともに生きる社会へ

障がいのある方が、地域で安全に安心して暮らせる社会を目指して、様々な支援事業が行われています。

石井亮一・筆子記念館（2002年国登録有形文化財指定）

interview

ながさき ふみこ
長崎 富美子さん
社会福祉法人　滝乃川学園（東京都）
法人本部　総務部部長　総務部科長
石井亮一・筆子記念館担当

さいとう ともひろ
斉藤 智裕さん
社会福祉法人　滝乃川学園（東京都）
地域支援部　地域生活支援センター
アシスタントサービス「色えんぴつ」支援スタッフ

楽しい時間になるように準備

――一緒に過ごすことで癒される――

斉藤 智裕（さいとう ともひろ）さん 社会福祉士

社会福祉法人　滝乃川学園（東京都）
地域支援部　地域生活支援センター
アシスタントサービス「色えんぴつ」支援スタッフ

PROFILE

1981年　神奈川県厚木市出身
2011年　社会福祉学部福祉援助学科卒
　　同年より社会福祉法人滝乃川学園勤務

社会福祉学部福祉援助学科卒
2011年３月卒業

表現力の豊かな知的障がい者に感動

「知り合いに誘われて養護学校のボランティアに参加したときに、初めて知的障がいのある子どもたちと接しました。なんて生き生きとした表情なのだろうと心を打たれたことが、福祉を目指したきっかけです」と、斉藤智裕さんはにこやかに話し始めました。

「好きな乗り物をキラキラした瞳で見つめる感受性の豊かさや、本当に幸せそうにジュースを飲む様子には人としての本質的な輝きを感じました。そこで福祉の世界に飛び込み、福祉の専門学校を経て、２００９年に日本社会事業大学の３学年に編入しました」

卒業後は、学生時代からヘルパーのアルバイトをしていた滝乃川学園に就職して3年目になります。

大切なのは計画と下準備

斉藤さんが勤務する「色えんぴつ」では、知的障がいを中心に身体や精神に障がいのある方の居宅介護、重度訪問介護、行動援護および移動支援等の支援するためヘルパー派遣を行っています。

ヘルパー派遣には大きく分けて2つあり、学校の終了時などにお迎えに行き自宅まで同行を主とする送迎支援と、休日に遊園地などに一緒にお出かけする余暇支援を主とするサービスがあります。利用登録している方と登録ヘルパーとをコーディネーターがマッチング（調整）して1カ月単位で予定を組み、斉藤さんもほぼ毎日ヘルパー業務に携わっています。

「大切にしているのはその人にとって何の時間であるかを考えること。余暇の時間であれば安全に楽しく一緒に過ごすことです。利用者の方の状況や服用する薬の情報なども把握しておき、電車の切符は本人かヘルパーのどちらが買うのかといった細かいことも事前に打ち合わせます。時間通りに進むよう綿密に計画を立て下準備をすることで、安全に支援ができるようにしています」

「色えんぴつ」ではヘルパーのスキルアップ研修として移動支援従業者養成研修や行動援護従業者養成研修も開いており、その書類作成や準備も斉藤さんの仕事です。「色えんぴつ」では年に1回開かれるバーベキューやキャンプも企画しています。

人と人を結びつける仕事

また、障がいのある方が1人で移動する際に困った時などに、周囲の人に見せて助けを求める携帯式の「ヘルプカード」を作成中です。カードの掲載内容や大きさなどを検討するメンバーの1人として、斉藤さんは出来上がりをとても楽しみにしています。

「ヘルプカードの制作自体は、ヘルパーのような直接支援ではありませんが、当事者と集団社会を結びつける間接的な支援活動につながります。日本社会事業大学での地域型演習授業で2年間、清瀬市役所や社会福祉協議会の方々と一緒に、住民懇談会を開催して地域の皆さんの生の声を聴いたことが役に立っています」

「利用者の方と一緒に過ごせることで私自身も癒されて、やりがいを感じます。福祉を目指す皆さんには、福祉への熱い気持ちを大切に持ち続けてほしいです」と斉藤さんよりエールをいただきました。

斉藤さんのある日（日によって業務内容は変わります）

09:00	出勤　ヘルパーの登録希望者が受講する「東京都移動支援従業者養成講座」を滝乃川学園内で開催するための申請書類作りなど
10:00	「ヘルパー派遣事業所のモデルプラン」報告書を作成
12:00	昼食後、事務所を出発　利用者の方の自宅にお迎え
13:00	利用者の方の余暇支援で公園へ同行 電車に乗って公園に向かい楽しく過ごすお手伝い
16:00	公園を出て利用者の方を自宅へ送る
17:00	「放課後活動等デイサービス事業」を利用している別の利用者の方をお迎え
18:00	利用者の方をお宅へ送り届けて、そのまま直帰

社会福祉学部児童福祉学科
1978年3月卒業

毎日が新しい出会いと学び

―穏やかな笑顔にやりがいを見出す―

長崎（ながさき） 富美子（ふみこ） さん

社会福祉士　介護福祉士

社会福祉法人　滝乃川学園（東京都）
法人本部　総務部部長　総務部科長
石井亮一・筆子記念館担当

PROFILE

1955年　神奈川県横浜市出身
1978年　社会福祉学部児童福祉学科卒
1979年　滝乃川学園成人部入職
　　成人部科長、副施設長、人事部長・記念館担当を経て現職

自立した生活ができる職業を考え福祉に進学

緑豊かな滝乃川学園の降るような蝉しぐれの中、長崎富美子さんを訪ねました。知的障がいのある方を支援する仕事に就いて35年になるという長崎さんは、日本社会事業大学に入学を決めたいきさつをこんな風に話してくれました。

「高校を卒業したあとの進路は、将来の職業を念頭に置いて考えていました。1970（昭和45）年頃、女性が選べる仕事には限りがあり、男女の賃金格差がなく自立した生活ができる職業に就きたいと考えたときに福祉が浮かびました」

当時は福祉を学べる大学は数少なく、そのなかで日本社会事業大学を選んだのは、福祉の単科大学で専門的に学べることが理由でした。さらに国立大学と同様の学費の安さも魅力でした。

「実は、これを読んでくださっている皆さんに誇れるほど学生時代は勉強熱心ではなかったのですが、日本社会事業大学で専門的に学んだことは、仕事にはもちろんですが、後に、高度なソーシャルワーカー専門職を養成することを目的とした専門職大学院で学ぶときの基礎になりました」

卒業後、様々な施設などを回り就職先を探すうちに知的障がい者施設での仕事に魅力を感じた長崎さんは、1979年、滝乃川学園に入職しました。

利用者の24時間を支援する

滝乃川学園は明治時代に創立された、日本で最初の知的障がい児のための社会福祉施設です。1970年には成人部も開設されて、長崎さんが入職した当時は3つの寮に約60人の方々が入寮しており、長崎さんは重度障がいの方の担当になりました。

まだ社会福祉士という資格制度はなく生活指導員という肩書での仕事は、利用者の方の生活すべてを支援することでした。朝、入寮者を起こすことからはじまり、衣服の着替え、洗面、食事、排泄のほか、日中は利用者の方が織物を織ったり敷地内でのシイタケ栽培などの作業活動するのをサポートし、就寝後の夜勤なども含めて24時間を交代制で支えます。重度の方は自分自身で生活を維持することがむずかしく、発語もかなわない方も多く、コミュニケーションを取るのに気を遣ったと言います。

「最も大切なのは、その人らしく生きるということです。その人が思いをうまく伝えられるよう支援することで不穏な状態にならないよう心を配りました」

不穏な状態とは、障がいのある方が自分の思いをうまく伝えられないときなどに不安定にな

○長崎 富美子さんのあゆみ

1978年	日本社会事業大学社会福祉学部児童福祉学科卒
1979年	社会福祉法人滝乃川学園成人部入職
	生活指導員として重度・中度・軽度知的障がい者を支援する
2000年	通信教育にて学び、社会福祉士受験資格を取得
2004年	休職し、日本社会事業大学専門職大学院に1期生として入学
2005年	日本社会事業大学専門職大学院修了
	その後、介護福祉士、ケアマネージャーの資格を取得
	復職し、滝乃川学園成人部の科長就任
2006年	滝乃川学園副施設長就任
2009年	滝乃川学園人事部長就任
	石井亮一・筆子記念館担当を兼任
2013年	法人本部総務部部長兼総務部科長就任
	石井亮一・筆子記念館担当を兼任

▲ 石井亮一・筆子記念館内
階段の滑り止めなど創立者夫妻による知的障がい児への配慮がされています

▲ 現在も礼拝が行われる「聖三一礼拝堂」（2003年国立市登録文化財指定）

ることで、生活指導員は適切な対応が求められます。

「毎日学ぶことが多く、大変な仕事だとは思っていませんでした。何よりも、利用者の方が落ち着いて穏やかな笑顔が見られることにやりがいを感じました。むしろ私自身が20代で若かったころは、自分の思うことが伝わらないという障がいのある方のもどかしさや、心の痛みにまで向き合えていたのだろうかと今になって思いますね」と振り返ります。

専門職大学院で学ぶ意味とは

長崎さんはその後、中・軽度の障がいの方々の生活支援も担当しながら、2000年には社会福祉士受験資格を通信教育で取得します。通常業務は早番・遅番・日勤・夜勤がローテーションで回ってきますが、その合間を縫ってレポートをこなし、集中講義などのスクーリングを受講しました。

この2000年には厚生省（現在は厚生労働省）から福祉に対する改革方針が発表されました。それまで障がいのある方々は行政からの「措置（そち）」に従い、施設などに入所すると長期間をそこで過ごしていました。それが、できるだけ地域で生活できるよう、「障がいのある方々がサービスを選んで契約する」というように変わりました。滝乃川学園でも地域生活支援センター「色えんぴつ」や居宅支援事業など新しい事業が始まる転機となりました。

また、日本社会事業大学でも専門職大学院が開学することになり、50歳を目前に長崎さんは休職して第1期生として入学しました。

「日本社会事業大学時代で学んだことに加えて仕事で実践的に体得し、さらに体系立てて一から勉強し直してみたいと思ったのが入学の動機です。休職を許可してもらえたのもありがたいことでした。とにかく専門職大学院での1年間は充実していて、その後の仕事にも生きています」

復職してからは主に人事や総務など組織経営の分野を担当しています。現在は総務部長として職員の人事考課や新規採用、面接、契約事業などをこなす一方で、職員へのメンタルサポート研修などにも心を砕いているそうです。

また、国登録有形文化財に指定されている「石井亮一・筆子記念館」には、年間約700人もの見学者が訪れるそうで、予約受付や案内業務なども担当しています。滝乃川学園では地域との親睦を深めるために納涼祭りを開いたり、園内外とのつながりにも気配りをしています。学園内の庭仕事などのボランティアを募るのも長崎さんの仕事です。

長崎さんはソーシャルワーカーとして35年。「振り返ってみると長い年月ですが、35年間のうちで同じことの繰り返しだったと思うような日は一日としてありません。毎日が利用者さんとの新しい出会いであり、学ぶことの多い充実した日々です。人はそれぞれ生きがいという基準をどこに置くかにもよりますが、この仕事は私にとってまさに生きがいであり、自分を活かせる仕事だと思います」

◀ 石井筆子愛用の日本最古級の「天使のピアノ」（2003年国立市登録文化財指定）

障がいのある方々への支援とは？ 地域で安心して暮らせるために

長崎さんや斉藤さんが働いている「滝乃川学園」は、1891（明治24）年、日本で初めて創設された知的障がい児のための教育・福祉施設です。以来120年を経て、障がいのある方々の福祉は施設だけでなく、様々なサービスが利用できるようになっています。

Q1▶ 障がいのある方々へのサービスとは？

A1▶ 知的障がいのある方は全国に約54万7千人いると言われています（内閣府平成24年版障害者白書）。平成25年4月から「障害者総合支援法」が施行され、身体障がい・知的障がい・精神障がい・難病等にかかわらず、各種サービスが利用できます。

Q2▶「障害者総合支援法」に基づく各種サービスとは？

A2▶ 障がいの種類や程度、介護者、住居の状況、利用者の意向やサービス等利用計画案をもとに、「障害福祉サービス」「地域相談サービス」「地域生活支援事業」等が利用でき、市区町村職員をはじめ、地域の相談支援機関のスタッフが相談に乗っています。

Q3▶ 介護の支援を受けられるサービスとは？

A3▶ 自宅で入浴や排泄、食事の介護等を受ける居宅介護（ホームヘルプ）、自己判断能力が制限されている方への外出支援等を行う行動援護のほか、重度訪問介護、同行援護、重度障害者等包括支援、短期入所（ショートステイ）、療養介護、生活介護、障がい者支援施設での夜間ケア等（施設入所支援）、共同生活介護（ケアホーム）など様々なサービスがあります。

Q4▶ 訓練などの支援を受けられるサービスとは？

A4▶ 自立した日常生活や社会生活のための一定期間の自立訓練、一般企業等への就労を希望する人への一定期間の就労移行支援、一般企業等への就労が困難な人に働く場の提供や就労継続支援、共同生活を行う共同生活援助（グループホーム）などがあります。

Q5▶「地域生活支援事業」とは？

A5▶ 市町村が利用者の状況に応じて実施するもので、円滑に外出できるように移動支援、生産活動の機会を提供したり社会との交流等を行う地域活動支援センター、住居を必要としている人に居室等の提供や日常生活の支援をする福祉ホームがあります。

ソーシャルワーカーは、こういった施設で専門知識を生かして、誰もがその人らしく暮らせるよう支援しています。

発行：日本社会事業大学　〒204-8555 東京都清瀬市竹丘 3-1-30
電話：042-496-3080（入試広報課） URL：http://www.jcsw.ac.jp